

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人ライフ・アンド・エンディングセンター

事業名	単身高齢者への「死後事務委任」の必要性の認知・啓発とその支援のための事業
枠の種類	ネーミング事業
分野	(一財) さいたま住宅検査センター ^{さいたま} 住まいるまちづくり支援事業
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>多くの高齢単身者の「単独死」(孤独死)については、本人はもとより、その家族や縁者、周辺住民にとっても不安のひとつです。この不安の解決の手段のひとつとして「死後事務委任契約」を周知、啓発します。</p> <p>私たちは「死後事務委任契約」事業を通して「持続可能な開発目標 (SDGs)」目標 11「すみ続けられるまちづくり」の達成の実現に貢献できるものと考えます。</p>
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>多くの高齢単身者の「単独死」の不安の解決の手段のひとつとしての「死後事務委任契約」を広く周知するため、次の二つの事業に取り組みました。</p> <p>(1) 「死後事務委任」に関する冊子作成</p> <p>冊子「おひとりさまの終活読本」を作成、講座で配布する。この冊子は、今後のNPOの活動の中で配布していく予定。</p> <p>(2) セミナー開催</p> <p>高齢者に「死後事務委任」の必要性を周知するために、高齢単身者、高齢夫婦、自分の死後に子供に迷惑をかけるのが心配な方や、その子供世代、さらに日ごろ高齢者と関わりのある活動をしている様々な方に、「死後事務委任」の必要性を伝え、広げてもらえるよう3回の講座を開催する。</p>
③個々の事業の内容・実施結果	<p>(1) 「死後事務委任」に関する冊子作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月～11月にかけて 冊子作成打ち合わせ及び冊子デザイン依頼 ・ 11月 冊子印刷「おひとりさまの終活読本」(3000部) 作成部数は当初1万冊でしたが、経費を抑えたことと、セミナーでの実際の配布数、必要な保管分等を精査し3000冊としました。 ・ 12月 セミナーで冊子配布 <p>(2) セミナー開催</p> <p>「高齢おひとりさまに伝えたい終活死後事務のこと」</p>

○チラシ作成

- ・ 8月～9月 チラシ作成打ち合わせ
- ・ 9月～10月 チラシデザイン依頼
- ・ 10月 チラシ印刷（1500枚）
- ・ 10月～11月 チラシ配布（配布先は、下記の広報活動参照）

○講座開催

- ・ 2020年11月から12月にかけて3回開催
- ・ 会場：埼玉トヨペット本社大会議室
（地域活性化を図るとともに地域連携・協働の観点から、地元埼玉トヨペットに会場の提供を協力していただいた。北与野駅前で、埼玉新都心にも近いため、参加者の利便性もよい。）

<第1回開催>

- ・ 日時：11月29日（日）13：00～16：15
- ・ テーマ：「死後事務を取り巻く問題」
 - 第1部 13:00～14:30 現場から見た終末期の課題
講師：永松幸子氏（さいたま市北区東部圏域地域包括支援センター センター長）
 - 第2部 14:45～16:15 死後事務の現状分析
講師：須齋美智子（NPO 法人ライフ・アンド・エンディングセンター理事長）
- ・ 来場者23名（目標30名）

<第2回開催>

- ・ 日時：12月6日（日）13：00～16：15
- ・ テーマ：「死後事務委任契約とは？」
 - 第1部 13:00～14:30 「終活」の基礎知識
講師：碑文谷創（理事 葬送ジャーナリスト）
 - 第2部 14:45～16:15 死後事務委任の実際
講師：加藤雅之（理事 ファイナンシャルプランナー）
- ・ 来場者26名（目標30名）

<第3回開催>

- ・ 日時：12月13日（日）13：00～16：15
- ・ テーマ：「死後事務委任契約の有用性」
 - 第1部 13:00～14:30 死後事務委任の進め方
講師：加藤雅之（理事 ファイナンシャルプランナー）
 - 第2部 14:45～16:15
講師：同上
- ・ 来場者25名（目標30名）

○来場者について

参加申込者の中には、第3波といわれるコロナ感染予防のため、急遽不参加とされた方が3名おり、上記の人数となったの

は残念でした。

参加者は一般市民。中には地域包括支援、シニアアドバイザーなど、日頃、高齢者の相談、支援活動を行っている参加者が多数ありました。皆、超高齢社会を迎え、今後さらに増えると予測される単身高齢者に向けた死後事務委任の必要性を感じての参加でした。参加者は熱心に講座を聞き、質疑応答も盛んに行われました。

コロナ感染予防のため、検温、手指消毒、マスク、窓の開放、マイク等の消毒、席の間隔を空けるなど、三密にならないよう実施しました。

○セミナー広報実績について

- ・さいたま市各公民館 60 館あて生涯学習センターへ配布依頼。
- ・さいたま市記者クラブ及び埼玉県記者クラブ各社へチラシ配布。
- ・2018 年開催埼玉県シラコバト基金助成を使い開催された「終活サポーター講座」の参加者へチラシを配布。
- ・県民活動総合センター他、公共施設あてチラシ配布。

○ 結果取りまとめ

講座、アンケート等について、ホームページに掲載予定。
現在ホームページのリニューアル中であるため詳細は今後記載予定。

時期	
7月	
8月	チラシ作成打ち合わせ 冊子制作打ち合わせ
9月	チラシ作成打ち合わせ チラシ作成デザイン依頼及び打ち合わせ 冊子制作打ち合わせ 冊子デザイン依頼及び打ち合わせ
10月	チラシ印刷 冊子制作打ち合わせ 冊子デザイン打ち合わせ
11月	冊子制作打ち合わせ 冊子デザイン打ち合わせ 冊子印刷「おひとりさまの終活読本」(3000部)
12月	セミナーで冊子配布 必要枚数のシール貼付

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="499 262 683 309"></td> <td data-bbox="683 262 1361 309">反省会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="499 309 683 398">1月</td> <td data-bbox="683 309 1361 398">結果取りまとめ 今後の事業推進検討会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="499 398 683 510">2月</td> <td data-bbox="683 398 1361 510">報告書作成</td> </tr> </table>		反省会	1月	結果取りまとめ 今後の事業推進検討会	2月	報告書作成
	反省会						
1月	結果取りまとめ 今後の事業推進検討会						
2月	報告書作成						
④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容	<p>「高齢おひとりさまに伝えたい終活死後事務のこと」のための3回講座を助成金により開催。募集30名に対し、コロナ禍にも拘らず各回、20数名の参加者を見ました。参加者は、今後問題となってくるおひとりさまの死後事務についての関心が深く、潜在的にこの事業に対し意欲的な方が多かったものと考えられます。ケアマネージャー、省庁からの個人参加等があり、この問題への関心の高さがうかがえました。</p> <p>助成金の講座参加開催を機に、その後、参加者に対し死後事務の必要性を広める「死後事務コーディネート」活動を更に進めるための勉強会を計画していましたが、コロナ禍による自粛制限によって集会開催が不能となったため、その後の勉強会を開催できず推進することができなかつたのは残念でした。</p> <p>このような状況でも、参加者の意欲は大変高く、コロナ禍終息後の活動が期待されます。コロナ禍終息後、参加者に向け勉強会等改めて計画する予定です。</p> <p>このような状況にも拘わらず、助成金による3回講座が無事開催できたことは幸いでした。</p>						
⑤費用の工夫	<p>冊子デザインをデザイナーに依頼するにあたり、この講座の意義とLECの理念をご理解頂くことにより、冊子デザイン費、印刷費を通常より相当の割引を可能なものとししました。</p> <p>消耗品等も、なるべく自前のもを使い、計上せずに収めました。</p>						
⑥地域社会への還元について	<p>地元の埼玉トヨペットの大会議室を提供いただき、地域に密着し、活動の理解を深めていただく機会となりました。</p>						
⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は行政だけでは難しいと思われる「死後事務」に特化した先進的な事業です。併せて、遺贈寄付を推進することができます。 ・20年にわたる終活とエンディングに係る知見と活動から得た専門性と人材によって、ことの解決に当たることが出来ると確信しています。 ・私たちの目的とする社会貢献に資する事業と思います。 						

<p>⑧事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者：理事長 須齋美智子 ②連絡責任者：理事 吉田麻里 ③現場責任者：理事 加藤雅之 ④経理担当者：北御門堯子 ⑤広報担当者：理事 松田濃
<p>⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーに参加した個人、事業所、団体等がそれぞれの地域に持ち帰り、更に他団体とのネットワークの広がりを図るため、個別相談のみならず、死後事務に関連した講師の派遣、講座開催を継続していく。 ・参加者の中から活動に賛同するメンバーを募り、おひとりさま、おひとりさま予備軍の掘り起しを図り、本人や、その家族の相談を受ける体制を強化する。 ・今回作成する冊子を多数の県民に配布し、冊子をテキストとするセミナー、相談会をきめ細かく開き、啓発の機会を多く準備する。 ・今後、HP、新聞、雑誌、テレビ、フェイスブック等 SNS などを通して広く「死後事務」の重要性を発信していく。 <p>これまで表面化していなかった死後事務の第三者委任の有用性、必要性の認知、啓発に向けて活動しています。</p> <p>来年以降も、セミナー、講座開催、公民館等からの依頼講座、ホームページ、メディアなどを通して啓発活動を継続していきたいと考えています。ホームページに関してはリニューアル中であるため、今春には新しいものに刷新する予定です。</p>